

## 都市デザイン研究室 2013 年を振り返る

### Teachers' best memories of 2013

2013 年も残すところあと約 2 週間。1 年を振り返りその苦勞を忘れる時期となりました。2013 年、先生方にとって最も心に残ったことは、また 2014 年に向けての思いとは…?

text\_segawa



### 西村 幸夫 教授



#### — 2013 年を振り返って心に残った場所

本郷キャンパスの図書館前の噴水広場の埋蔵文化財調査の様子。かつて明治 30 年頃に建設された古い図書館の煉瓦の基礎が出てきました。それからわかることは現在の図書館と軸線が同じだったということ。都市軸の記憶は今も受け継がれているのです。そうした歴史が、日々歩いているキャンパスの地下わずか 10cm 足らずの所にあるのです。空間の記憶は直接的に受け継がれなくても、都市軸のようなひとつの意図として受け継がれているのだと実感を持って受け止めました。

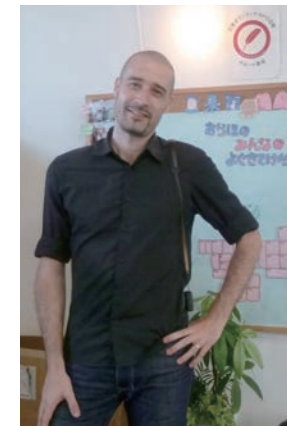
### 受け継がれる都市軸の記憶

#### — 2014 年に向けて

2013 年が先端研の運営とキャンパス計画室の仕事とでほとんど占められてしまったので、何とか自分本来の仕事もできるように時間を工夫したいと思っています。

#### — 研究室の学生に一言

時間が無限にあると信じられる若い頃がうらやましいです。ただ、たしかに時間だけは誰の上にも公平に経過していくので、その使い方は自己責任以外のなにものでもありません。「時間を大切に」、とだけ言いたいと思います。



### Christian Dimmer 助教

This spring I had the opportunity to present our POPS research at the Urban Affairs Association Conference in San Francisco, where I also meet some remarkable individuals. John King, San Francisco Chronicle's renown architecture critic, has heightened the public awareness of the city's POPS throughout his career. Based on this, Kimia Haddadah, a young urban designer with San Francisco's Planning Department has build up a

### Everyone can make a difference

comprehensive public POPS database. Paul Chasan, equally young, developed the city's pioneering Parklet Program and other cutting-edge public space innovations that attracted worldwide attention. These encounters highlighted for me the importance of leadership, civic spiritedness, and vision; it showed that every individual can make a difference for building more inclusive, livable, and lovable cities, even if we start small.

### 中島 伸 助教

#### — 2013 年を振り返って心に残った出来事

2 月の博士論文審査会が心に残る出来事の一つ。2 時間にわたる発表と質疑によって、自分の関心のある研究について、素晴らしい先生方を独り占めできる時間というのは、もう二度やってくる得難い貴重な時間だった(もう一度やりたいぐらい)。そして、博士号の学位取得後の激動の 10 カ月。現場で良くしていただいたことや出会いも多数だが反省も多数。年末にあたって、審査会の扉を開けた時の

### 都市デザイン研究室だからできること

挑戦するぞという気持ちをもう一度強く持ち直そうと思いました。

#### — 研究室の学生に一言

新しい価値や論理の追求をしないことには現場に出ていく意味がないという思いが最近強くなっています。「誰かの出来ること」ではない、この「都市デザイン研究室だから出来ること」にもっと自覚的になってお互い高め合いたいですね。教員に気持ち負けないで、行動でもっと超えてほしい。



### 窪田 亜矢 准教授

#### — 2013 年を振り返って心に残った場所

師走に入って特に出張が重なり、この欄では罪滅ぼしとして写真と共に紹介します。

鶴岡の山王商店街では、古書店の阿部久さんが新しい建築デザインに挑戦して、おもてなし空間も設えました。足助のマンリン書店を筆頭に、町並みにおける本屋さんの意義は重い!

マレーシア工科大学 Idid 先生が中心となり 7th Symposium of Asian Heritage が開催されました。アーメダバード大学 Nayak 先生とインドの奥深さについて熱く語り合いました。

29 戸の環状集落荻ノ島では、協議会春日会

長が「ここでは亡くなった人も生きているんだよね」とさりとおっしゃいます。

震度 6 強の須賀川では、赤瓦の蔵を何とか修復しようと大変な努力をされています。夕陽に映える姿が本当に美しい。

#### — 2014 年に向けて

プロジェクトと研究の応答関係を精査したいと考えています。

#### — 研究室の学生に一言

それぞれのジュリーに向けて突っ走ってください。

### 多様な場の多様な思い



### 黒瀬 武史 助教

#### — 2013 年を振り返って、心に残る場所・出来事

今年は平均すると大槌に月一回以上通いました。その中で、研究室メンバーが作り上げた、震災当日の避難行動の記録は、将来の世代に向けた大切な取組だったと考えています。一方で、復興事業の前進に伴い、プランナーとして、難しい判断を迫られることもありました。ルンビニ PJ も 3 年を経て、丹下先生のマスタープランも随分進捗しました。世界各国の篤い信仰の思いを、どのように空間で受け止

### 悩みは尽きない

めるべきか、思い悩みました。誰のために、何のために、どのような考えを示し、空間を提案すべきか。自分は、将来起こる空間や人の、姿と変化を想像できているのか。悶々とした一年でした。

#### — 研究室の学生に一言

まちに関する悩みはつきないと思いますが、一緒に悩んでくれる仲間が研究室内外にいることを、最大限活かしてください。その悩みは、より深く、豊かなものになるかもしれません。

### 松田 達 助教

#### — 2013 年を振り返って、心に残る場所・出来事

ついこの前の出来事ですが、12 月 14 日から国立新美術館ではじまった 16th DOMANI・明日展に出展しました。文化庁の派遣芸術家制度で海外留学した 8 人のアーティスト、43 人の建築家が出展しており、内覧会では文化庁長官からの挨拶もありました。研修の成果がずらっと並ぶ形になっています。アーティストの作品も空間を意識したものが多く、その素晴らしさに圧倒されました。また建築の

### アンテナを張って

多様性をあらためて感じることで出来る展示になっています。年始の 1 月 26 日までやっていますので、よろしければぜひ御覧ください。

<http://domani-ten.com/>

#### — 研究室の学生に一言

都市は実に多面的です。とにかくアンテナを広く張って、いろいろな情報をキャッチしましょう。知には、深さと広さの両方が必要です。



▲鶴岡・山王商店街の阿部久書店



▲7th Symposium of Asian Heritage



▲荻ノ島の協議会の春日会長



▲須賀川の赤瓦の蔵



UD Lab.  
研究室全体

Otsuchi  
大槌

POPS  
公開空地

Sawara  
佐原

Shimizu  
清水

Tomo  
鞆

Lumbini  
ルンビニ

Reading Club  
読書会

1 Jan.  
4 Apr.  
5 May.  
6 Jun.  
7 Jul.  
8 Aug.  
9 Sep.  
10 Oct.  
11 Nov.  
12 Dec.

● 4月  
中島伸助教着任

● 5/24 学会名誉受賞  
日本都市計画学会年間優秀論文賞  
(D3 鈴木亮平さん)



● 7/20 丹下建三先生生誕百年シンポジウム  
● 7/25 farewell BBQ



● 8/31-9/1 日本建築学会大会

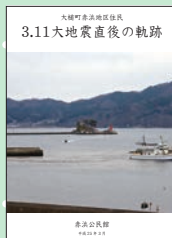


● 10/2-14 建築夜学校 2013  
アーキテクト and/vs アーバニスト展

● 11/1-3 APSA@ 国立台湾大学  
● 11/9-10 日本都市計画学会大会

● 12/18 忘年会

● 3月  
「赤浜避難行動記録」発刊



● 7/15 建築学会技術部門設計競技  
「平衡の道筋」で佳作入選



● 8/22-25 吉里吉里ギャラリー開催

● 9/2-3 奥尻島現地調査



● 10/17-18 赤浜思い出マップ制作のための  
ヒアリング調査



● 12/1 赤浜広場 WS

● 4/1-7 San Francisco にて調査  
● 4/5 UAA conference にて発表  
● 4/25 九段下～御茶ノ水にて調査



● 6/20 千代田区にて調査



● 10/31 Dr. Emery Huang とともに  
1日東京 POPS ツアー



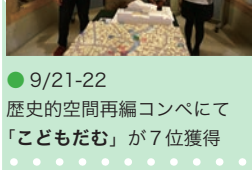
● 11/15-17 Mn'M Symposium 3 にて発表



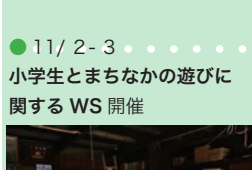
● 5月 生活についての調査の開始



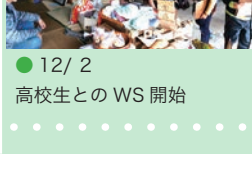
● 9/21-22 歴史的空間再編コンペにて  
「こどもだむ」が7位獲得



● 10/10-13 大祭にて生活調査についての  
展示発表



● 11/2-3 小学生とまちなかの遊びに  
関するWS開催

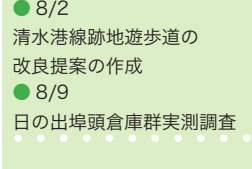


● 12/2 高校生とのWS開始

● 3/15-17 港湾再生事例調査  
(大分・広島)



● 7/12-14 鞆港周辺の10年間での  
空家利活用を調査



● 8/2 清水港線跡地遊歩道の  
改良提案の作成  
● 8/9 日の出埠頭倉庫群実測調査



● 9/18-19 10月の発表に向けた  
追加調査と打合せ



● 10/20 社会実験「清水みなと散歩」



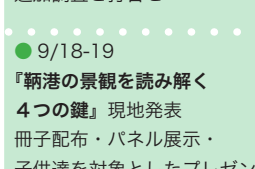
● 12/6 清水港線跡地遊歩道 WS



● 7/3-5 International scientific  
steering committee  
にて発表



● 9/18-19 『鞆の景観を読み解く  
4つの鍵』現地発表  
冊子配布・パネル展示・  
子供達を対象としたプレゼン



● 11/15-22 ルンビニ内交通調査と  
周辺遺跡の集落調査



● 12/6 清水港線跡地遊歩道 WS

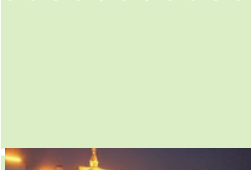


● 12/6 清水港線跡地遊歩道 WS

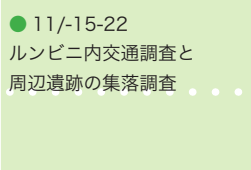
● 1/4-12 現地調査



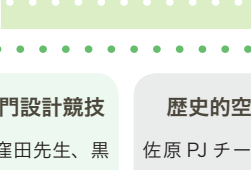
● 7/3-5 International scientific  
steering committee  
にて発表



● 11/15-22 ルンビニ内交通調査と  
周辺遺跡の集落調査



● 12/6 清水港線跡地遊歩道 WS



● 12/6 清水港線跡地遊歩道 WS

中島伸助教と学生有志6人でこの春から始まった読書会。「都市に関する名著を読み、議論することで都市デザイン力の向上を図る」という目的の下、毎月2冊を目標に地道に続けています。

第1回 E. ハワード  
「明日の田園都市」

第2回 R. ヴェンチャー  
「建築の多様性と対立生」  
「ラスベガス」

第3回 横文彦ほか  
「見えがくれする都市  
—江戸から東京へ—」

第4回 陣内秀信  
「東京の空間人類学」

第5回 オギュスタン・ペルク  
「日本の風景・西欧の景観」

第6回 原広司  
「集落の教え100」

第7回 越沢明  
「東京の都市計画」

第8回 渡辺俊一  
「『都市計画』の誕生」

第9回 レム コールハース  
「錯乱のニューヨーク」

第10回 布野修司  
「カンボンの世界」

第11回 吉見俊哉  
「都市のドラマトルギー」

第12回 鈴木博之  
「東京の地霊」(予定)

研究室マガジン 200号突破!

2013年8月10日に発行したマガジンで記念すべき200号を突破しました。初代の酒井編集長が2005年4月15日に創刊号を発行してから、はや8年以上が経過しています。創刊当時は編集長が1人で発行していたマガジンも、今では8人の編集部員がマガジン編集部として精力的に活動しています。

少しずつデザインの変更などを経て、代々受け継ぎながら進化し、今のマガジンがあります。これからもマガジン編集部は都市デザイン研究室の今を発信し続けます。みなさま、引き続き都市デザイン研究室マガジンのご支援、ご協力、ご愛読をよろしくお願い致します!



▲200号突破を記念して初代編集長からのご寄稿

マガジン社会科見学部

今年のマガジン社会科見学部は、4月26日にまちづくり大学院D4の川崎さんに御案内いただいた御茶ノ水ソラシティ、7月30日に都市再生特別地区を利用した開発事例として京橋の丘を見学しました。



▲ソラシティ外観



▲区的环境施設で説明を受ける

来年度も引き続き活動を行っていきたく思いますので、どうかみなさま暖かくお見守りください。

Information

大募集!

マガジン編集部では現在、さらに充実した紙面づくりのために新連載の企画を検討中です。そこで、突然ですが研究室の皆さんからも研究室マガジンの新企画を募集します。アイデアが溢れて仕方がない方、こんな記事が読んでみたい!という希望がある方、ない方。どなたでもご自由にご投稿いただけます。

ご意見、アイデアはマガジン編集部まで  
mail: magazine@ud.t.u-tokyo.ac.jp

みなさまのご意見、編集部一同お待ちしております!

12月・1月の予定

12月19・20日 大槌PJ現地調査  
12月24日 第11回研究会議  
1月11日~17日 ルンビニ現地調査



編集後記

瀬川 明日奈

今年も忘年の季節がやってきてしまいました。「この1年の苦勞を忘れたい!」と思うほどの、大それた苦勞をした経験はまだありませんが、年末の世間のどこか忙しない、あわわとした空気は心地よく好きです。毎朝、家を出る直前の雰囲気似ています。いつもならすぐ見つかるはずのお気に入りのハンカチが見つからず焦る、あの感じです。うん?ちょっと違いますね。

とにかく、「今年もあっけなく終わったね」と、また来年の年末も呑気に言っていたらいいなあ、と思いつつ編集作業に動かしむ師走です。

国際セミナーWS in ローマ

9月23~26日にD2宋、M1道喜が参加した。東大とローマ大学建築学部とのWS。ローマ市郊外を対象に市街地再開発について討論・提案しました。



Joint International WS in バンコク

東大とチュラロンコン大学とのWS。9月20~30日にM1瀬川・高梨、空間研M1中野が参加。低所得者用団地再生について提案しました。



MIT WS in ボストン

工学部主催のMITやハーバード大学との交流を目的としたWSに9月9~13日までM1瀬川が参加。GSDやMedia Labなどを見学しました。



ワークショップ

造園学会アイデアコンペ

日本橋を対象とした学生コンペにてB4原、M1瀬川・高梨・道喜、空間研M1本間が参加し、優秀賞を受賞しました。



土木計画学デザインコンペ

B4柴田が他研究室M2とともに土木計画学公共政策デザインコンペにて、土木計画学委員会賞を受賞しました。



建築学会技術部門設計競技

大槌PJチーム(窪田先生、黒瀬先生、M2萩原、M1瀬川・道喜)で被災地を対象としたコンペにて佳作を受賞しました。



歴史的空間再編コンペ

佐原PJチーム(M2柏原・越村、M1高梨)が金沢で行われた、歴史的空間を対象とするコンペにて7位に選ばれました。



コンペティション